

オホーツクの風

平成28年3月25日(金) 0016号

発行所
北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局
北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

グラントオープンと 創立80周年記念

オホーツクの高度医療拠点病院

平成28年3月19日、北見赤十字病院は病院移転新築・90周年の記念式典

を北館多目的ホール「ミント」で執り行いました。

日本赤十字社近衛忠輝社長外来賓、関係者100名程が参集して、式典が挙行されました。近衛社長の挨拶に始まり、



北見赤十字病院
グラントオープン
創立八十周年
記念式典・祝賀会

記念式典
●会場：北見赤十字病院 北館 多目的ホール(10F)
●期：平成28年3月19日(日) 13:30-15:00
祝賀会
●会場：北見赤十字病院 南館 3階(303F)
●期：平成28年3月19日(日) 15:30-18:00



日本赤十字社近衛忠輝社長の挨拶

平成24年7月の起工式から一連の施設が随時完成、最終工程の北7条通りが今年3月に開通し、グラントオープンと80周年記念式典を迎えたのです。

新病院プロジェクトは『平成20年5月17日、北見赤十



グラントオープンまでの歩み

平成22年2月	北見市役所跡地を新病院建設用地として無償貸与そして財政支援が決定
平成22年2月	日赤本社、北見病院の改築を承認
平成24年6月	新病院 起工式挙行、施行 清水・北成・村井・松谷」V
平成26年4月	「オホーツクベットのセンター」オープン、一般利用開始
平成26年12月	新本館開院(ハリポート併設)
平成27年6月	新本館新装工事完成 歯科口腔外科の開設、診療開始
平成27年11月	多目的ホール「ミント」工事完成、古屋泌尿器科医院 古屋 院長の記念講演会開催
平成28年3月	昨年12月・駐車場工事完成、今回北7条通り開通

北見市地域医療 対策室

北見市役所を訪れ、神田孝次市長に「北見赤十字病院・新病院に関する要望書」を手渡し、現市庁舎の移転を前提に、その跡地を利用した全面改築が最善との考えを示し、平成26年度開院を目指す考えを明らかにした」ことから始まったのです。

その後、北見市役所の移転反対運動などの逆風が吹き、試行錯誤の苦難の年月を得て、今日の式典を迎えたのです。

同院は元より、関係者そして北見市民の喜びはひとしおです。

この財政支援の事務を担当したのが、

北見市地域医療対策室

平成24年3月9日付、「経済の伝書鳩」の記事です。

『北見赤十字病院の改築事業への財政支援は、全体事業費167億9400万円のうち、北見市が60億円、国・道が37億4200万円、管内17市町村が3億5千万円を支出する。

市の支出の財源は合併特例債と一般財源。一般財源を充てる額は合わせて20億1千万になる見通しだ』

明日に向かって

北見市地域医療対策室です。

国・道との折衝、議会への資料説明、そして北見赤十字病院との調整に奔走し、病院建設を側面から支えました。

目立たない裏方の業務ですが、今回のグラントオープンを迎えることが出来たのは対策室スタッフの努力のお陰だと思えます。

日赤が次の100周年に向かって、地域との信頼の絆を強くし、益々発展することを願い、私達も側面から、息の長い応援を考えます。

平成28年度(第7回) 総会

谷川代表、多くの実績を残して退任



平成28年3月7日(月)、午後1時30分より、当会の平成28年度(第7回)総会を北見赤十字病院の会議室で開催しました。

谷川代表の挨拶があり、来賓でご臨席を戴いた北見赤十字病院の吉田院長が挨拶に立ちました。

『第51回日本赤十字社医学会総会におきましては、ご協力を戴き、ありがとうございました。今まで、総会は日本赤十字社以外の外部の方が入ったことがなかったもので、各地の病院の先生方(関係者)から、その経緯などを聞かれました。自分たちの病院でもと考えられたようです。

また、2年目になる「北見での思い出づくりの集い」では、

研修医の先生方がフオークダンスと食事を通して、北見市民の方々と親しく楽しんだようです。今年も8名の研修医の先生方とのマッチングができ、3年目の「思い出づくりの集い」に仲間入りできると思います。』

と当会の活動に詳しくふれられ、高い評価を戴きました。

会員の表さんが議長席に着き、総会の議案審議に入りました。

▼平成27年度・事業報告、平成27年度会計決算報告及び会計監査報告。

阿久津事務局長が



らの事業報告の説明、阿部会計からの決算報告、表会計監

北見赤十字病院の明日を考え支援する会がスタートして6年余り。

振り返れば機関紙「オホーツクの風」発刊と研修医の皆さんとの交流会こそ誇れる活動だったように思う。いずれも新代表逢坂信治氏の発案、事務局長阿久津俊子、会計阿部孝子両氏を中心とするメンバーの支えがあっ

決意、新たに

前代表 谷川勝男

査に成り代わって、森實副代表が監査報告を行い、原案通り可決しました。

▼平成28年度事業計画及び会計予算。

阿久津事務局長、阿部会計からそれぞれ説明があり、原案通り可決しました。

▼平成28年役員選出。

事務局から人事案が示され、次の通り、承認されました。

会長・逢坂信治(新)、副代表・谷川勝男(新)、副代表・森實和美(留)、事務局長・阿久津俊子(留)、会計・阿部孝子(留)、監査・表宏樹(留)、ほか会員の全てが理事に就任。

審議終了後、廣川総務課長からコメントを戴き、総会は閉会しました。

て実現した。

何事も人に始まって人で終わるの喩え通り、シニア世代が多い会員は、互いの人生体験に導かれるようにして会の活動を進めてきた。

昨年10月、当地を会場とする医学会総会に局外から参加が許されて、得がたい体験もさせてもらった。医療の内懐を垣間見ることができ

た全国の方々と交流は、今後の会の活動にたくさんの示唆を与えてくれた。

そして、この3月、新代表逢坂信治氏のもと「支援する会」は新たなスタートを切った。人生経験が豊富で斬新な企画力の新代表が会の先導役としてふさわしい。会員一同、決意も新たな「一歩」を

北見赤十字病院からの感謝状

当会に贈られる



平成28年度総会の閉会に引き続き、北見赤十字病院の吉田院長から感謝状が逢坂代表に贈られました。

私たちは「北見赤十字病院の医療活動に携わる全ての人々への感謝の気持ちを共有し、日赤の医療活動の現状と将来を考え支援することを目的」に平成22年1月に当会を立ち上げました。

病院の現状を知るために勉強会や院内見学会などに着手し

ましたが、具体的活動で思い悩む年月が続きました。

漸く、私たちは病院の「応援団・広報部」の仕事が使命と気づきました。

平成26年8月、「熱烈歓迎 北見赤十字病院・研修医の皆さん 焼き肉と地ビールそしてフオーダンス 北見での思い出づくりの集い」を開催しました。研修医の皆さんから大変よろこばれ、当会のメインイベントに成長していま

北海道新聞 平成28年3月9日付
病院支援に感謝状

北見

北見赤十字病院の患者や市民らでつくる「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」に7日、吉田茂夫院長から感謝状が贈られた。写真。吉田院長は「温かいご理解と支援に心から感謝している」と話した。同会は2009年発足。地域医療や病院運営の現状について学んでいる。2年前からは、同病院の研修医を励ますうとパーベキューを楽しむ集いを開催。昨年10月に北見で開催された日本赤十字社の医学総会では、来場者を案内するなど運営に協力し、パネル



や会報で活動を報告。全国の医療関係者に注目された。この日の総会で新代表に就き、感謝状を受け取った逢坂信治さん(76)は「大変、光栄。今後も活発に活動を続けたい」と話した。

す。

平成27年10月、第51回日本赤十字社医学会総会が開催され、日本赤十字社や全国の赤十字病院の皆さん、1700人余が北見を訪れました。

パネル発表会場



感謝状

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会殿
責団体は当院の事業・活動に
対し暖かいご理解と惜しみな
い支援に努めて来られました
また第五一回日本赤十字社医
学会総会における運営協力並
びに活動報告は全国赤十字社
からの反響も大きくそのご
功勞を讃えここに感謝の意を
表します

平成二八年三月七日
北見赤十字病院
院長 吉田茂夫



(北見市立体育センター・東陵公園)で、会場を訪れた皆さんの接待と会の活動を示すパネル展を当会が担当し、全国のいくつかの赤十字病院スタッフとの交流も生まれました。

このような活動を同院が評価し、今回の感謝状の授与になったのです。会員皆で受賞の喜びを分かち合いました。

これを機会になお一層、活動の内容を充実して参ります。感謝状に添えられたお礼の金一封は会の運営資金として大切に使います。

谷川前代表が寄稿

創立80周年記念誌 感謝

創立80周年記念誌の編纂は「北見赤十字病院創立80周年記念誌作製編集委員会」が行うことになり、委員長に相原

事務部長、委員に上野副院長兼看護部長外の皆さんが選ばれ、南参事外が編集委員会事務局を担当しました。

古い資料・写真の整理、各部門の現況、外部の寄稿者への依頼など膨大な取材と編集作業が続いたのです。

記念誌はグラウンドオープン・創立80周年記念の式典までに仕上げなければなりません。日常の業務の後、記念誌作製に取り組んだスタッフのご苦労は大変なものだったと思っています。「創立80周年記念誌・この地と共に

創立80周年記念誌 感謝、表紙



創立80周年記念誌

この地と共に歩んだ80年に感謝を込めて



北見赤十字病院

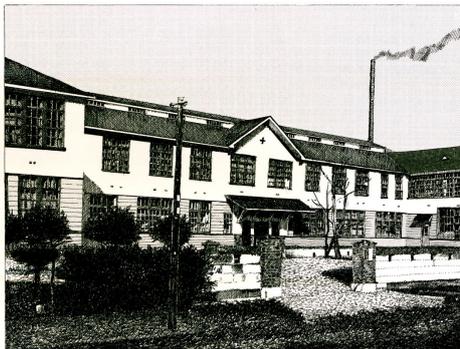


北見赤十字病院の明日を考え支援する会

代表 谷川 勝男



研修医を対象とした「北見での思い出づくりの集い」



画 小岩辰男 旧館病院スケッチ

80th Anniversary | 029

創立80周年に寄せて

突然、両の眼が見えなくなった。

母がリヤカーで北見赤十字病院の小児科に連れて行ってくれた。女医先生が「これは内科、つまり肺結核が原因です」とアメリカから入って来たばかりだという「パス」を処方してくれた。

眼は、10日ほどで見えるようになった。それから2年間、5年、6年のときに東小学校からの帰りに、北見赤十字病院に通った。当時、結核は「不治」の病、多くの人が命をなくした。ぼくは今も、40代とおぼしき女医先生の一見無愛想な顔を忘れることが出来ない。簡単な手術をして10日ほど入院した。退屈のつれづれに院内を散策をした。内科外来まで来ると、待合室が暗かった。内科医が1人も居なくなって診療されていないからと知った。100人近い医師、500人の看護師が日夜、医療活動をしている北見赤十字病院に「内科医」が1人も居ないという、それは大変なことだと思った。何かしなければ、と思った。そのための「会」を作らなければ、と思った。若くて優しい看護師にメモ用紙をもらって、深夜のベットで、まずは会の名前を考えました。

行きつ戻りつして、「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」と。次に会の活動の趣旨を呼びかける文章を考えました。そして、退院した。

60人余の友人、知人に「呼びかけ」の文書を送った。そして会が生まれて、しかし、何をすればいいのか。真壁課長、廣川課長、遠藤係長と会員が膝をまじえつ、院内を見学させてもらった「活動」が始まった。

それから2,000余日。第51回日本赤十字社医学会総会を1週間後に控えて、会は、「パネル展」の準備をしている。

副代表の逢坂信治、事務局長の阿久津俊子、会計の阿部孝子と会員達が、代表とは名ばかり谷川を支えてくれた地域医療のためのささやかな活動を、今日も、明日もと思うばかりなのである。

歩んだ80年に感謝を込めて」は先日完成し、今回の式典で贈呈されました。 ■吉田院長外各界の皆さんからのメッセージ「80周年記念誌に寄せて」から始まり、 ■この地と共に歩んだ80年、 ■各団体代表からのメッセージ「創立80周年に寄せて」の数ページがあり、その中に谷川前代表の寄稿が掲載されています。 ■新病院の紹介、新病院建設への思い(吉田院長)、 ■これからも未来と共に、各部門紹介など250P程の立派な記念誌です。

昨年12月16日、会の例会で、谷川代表が辞意を示し、その後、何度か、役員会で辞意の取り扱いと新代表の選出について話し合いをしました。円満に結論を得、役員選出案を総会に提案しました。平成28年3月19日(土)、北見赤十字病院移転新築改修工事竣工・グラウンドオープンと創立80周年記念式典に招かれて、お祝いに会を代表して参列しました。心からお祝いを申し上げます。会の立ち上げを提案されたのが谷川さんでした。 発足から長い間、私たちを導いて戴き、有り難うございました。 今回の総会で、代表の仕事をやる事になりました。ご指導のほどよろしくお願ひします。(逢坂)

編集後記